

2024 年度 学校法人 三幸学園 名古屋リゾート&スポーツ専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小久保和紀

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

★ 担任制度の変更：1クラス1担任・1副担任 → チーム担任制

※多様化する生徒のニーズや価値観に対応していく為に相談窓口を増やすことで退学率の低下を目指した。

※担任個々の経験・力量によるクラス間格差をなくすことを目的に実施した。

⇒退学率はおおよそ1%の低減という結果に至った。

★ 機能解剖学・キャリア教育のテキストの変更。

⇒目標喪失する学生は減った為、効果が出た可能性がある。

★ 同窓会委員の選出：今まで教員の担っていた役割を卒業生が担う。

⇒選出段階で愛校心のある学生を選出することができた為、2025 年度に同窓会実施予定。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・各学科の人材育成像が非常勤講師の先生方までには浸透していない。
- ・変化の多い業界のニーズに合わせた人材育成像になっていない可能性がある（SNS 等のカリキュラム編成）

② 今後の改善方策

- ・学科会、学科 Teams にて年度初め、後期開始前などに共有していく。
- ・全体会議の中での学科会にて随時共有していく。

③ 特記事項

- ・2025 年度よりカリキュラム変更が行われた。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・新人事制度の運用開始に伴い、新規で対応すべきことが発生した。
- ・Sanko Gate の生徒定着は徐々にしているが、有効活用まで至っていないことやアンケート取得率向上の結果が出ていない。それに伴い事後のフォローをする業務が発生してしまい、業務の効率化ができていない。

② 今後の改善方策

- ・制度の目的を理解していけるように、会議等で伝達を行っていく。
- ・自己評価が高いメンバーもいるのでメンバー自身が設定した目標が該当等級で求めるレベルが同じとなるような設定をしていく。
- ・使用頻度を増やすことで職員全員が使用ツールの理解度を深めていく(マニュアル)
- ・アンケートがいつ発信されるか職員も生徒も把握することで効率化を図る。
- ・OJT 指導者との連携を図る。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・就業に繋がる就職行事などを定期的に行っているが、活動や生徒の状況に関する評価を都度いただけてはいない。
- ・カリキュラムの作成と見直しは科目によって様々となっている。業界団体以外のカリキュラム見直しは講師等校内で完結してしまっている状況。
- ・学科により差はあるものの、ボランティア等課外活動への参加率が低く校外での職業教育が十分にされていない。
- ・任意研修の職員参加率が低い。原因は日程が授業と被ってしまい参加できていない。

② 今後の改善方策

- ・関連企業の方をお呼びした際に、都度アンケートを実施するなど、現在の取り組みの振り返りを行う機会をつくる。
- ・職員が積極的な企業訪問で業界の魅力理解や魅力のある企業の新規開拓をする。
- ・研修を受けてきた人より内容を共有して未参加者の研修意欲を高めていく。
- ・会議などで、今までの関連企業に限らず業界のニーズやトレンドを取り入れた研修の機会を作る。

③ 特記事項

- ・全体会議にて職員向けの授業力向上の為の取り組みは実施している。
- ・ST 科キャリア教育において表業界団体との連携を開始した。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業後の定着率やリカレント教育の希望など、卒業生のニーズをとらえていない。
- ・学科により差はあるものの、全体を通して既存で関わっていただいている企業への就職者が多く新規での企業開拓ができていない。
- ・卒業生向けの SNS 発信はしているものの登録者数や閲覧数が増えずに伸び悩んでいる。
- ・主要資格の合格率は上がったが、受験率が 100%とならない。
- ・目標喪失や進路変更での退学率低減は前期期間キャリアと連動させることで好調であったが、進級を前にすると軽減できていないので対策が必要
- ・卒業学年の単位不認定による退学率が増えた。

② 今後の改善方策

- ・資格対策を通常の授業と連動して行い、より多くの講師の方に通常授業において資格の必要性や、日々の学び方を伝えていただく機会をつくる。
- ・卒業後アンケートの回答率を向上し正確な情報を獲得できるようにする。そのためにも卒業生のネットワークの構築を行う。
- ・生徒のニーズを把握した新規企業開拓と定期的な訪問を実施する。
- ・定期的な配信をすることで、常にリアクションを見ていく事により有益な情報発信をしていく。

③ 特記事項

特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・外部活動を行える機会をより多く確保する取り組みは行えているが、外部活動参加につながる取り組みにおいては改善の余地がある。
- ・中途退学者を出さないような、教務的な支援は行っているが、退学後の支援までは行えていない。
- ・卒業生の現状把握ができておらず、求めている支援内容が把握できていない。
- ・独立支援など、支援している内容の理解がなされていないので活用されない。
- ・チーム担任を導入したが学科によってチーム担任がうまく機能しておらず、生徒の相談先が曖昧になってしまった。

② 今後の改善方策

- ・外部活動に向けた事前のガイダンスの実施。
- ・退学後の支援につながるような、求人の確保。
- ・卒業後の支援内容が明確になっておらず支援内容を把握するための会を開催する。
- ・卒業後の情報発信ツールを浸透させていく。
- ・新入生はスタプロよりチーム担任で稼働を組み生徒へのチーム担任意識を早くから持たせることとした。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・インターンシップの受け入れ先を生徒の希望を 100%叶える状況に至っていない。
- ・海外研修の内容・費用においては改善の余地あり。
- ・インターンシップの希望が 100%生徒の希望通りとはいっていないため、多くの企業様やチームへ本校の教育理解をしてもらう事が必要。

② 今後の改善方策

- ・学生からのインターンシップ希望施設のヒアリングを行う前段階で、ある程度関連企業、チームに協力要請を行い、インターンシップ先を確保する。
- ・企業様へ訪問し、本校の理解をしてもらう事と受け入れ先のメリットを擦り合わせることで実習のより良い受け入れをしてもらう。
- ・適切な価格で提供するためにアメリカだけでなく時期や地域等外的要因として大きな影響がない地域も検討する。
- ・スポーツトレーナー科の実習体系が変わるため新規開拓をしていく。

③ 特記事項

- ・8 階フロアの改装が実施された(2025 年 3 月)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・高校の先生が、本校の数ある入試方法が全て理解できていない事により、入試方法選択に影響が出ている。
- ・大学迷い層へ専門学校の魅力が十分に伝えられていない。

② 今後の改善方策

- ・入学相談室と連携を取り高校との関係性を深め、入試方法の理解促進を進める。
- ・星槎大学での保健体育教員免許がとれることの訴求をする。
- ・業界内就職率の向上をすることで大学と差別化する。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方法

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・サービスラーニング演習（ボランティア実習）の単位不認定者が目立つ。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度より新しい施策を導入するなかで、成果の出ている部分と、成果が振るわない部分と大きく明暗が分かれたように思う。また、浮彫となった新たな課題に対しては、評価委員会からのコメントをいただきながら、改善につなげていく必要があると感じている。評価委員からのコメントにより新しい視点や気づきを得ることは評価委員会の大きな目的の一つであり、施策の改善につながるような気づきを得るために様々な立場、視点からのご意見をいただくことを期待している。